

神在りの出雲泊りの柚味噌かな

藤田湘子

陰曆十月は一般的には神無月と呼ばれるが、全国の八やお百万よろずの神々が集まる出雲だけは神在月となる。

湘子先生の出雲での定宿が何処であつたかは知らない。しかし、出雲は安曇野と共に好きだつたようで、二十八歳で訪れ、その後鷹主宰になつてからも度々訪れ、指導句会や俳句大会を催している。

鷹会員の待つ出雲で食べる柚味噌の味は格別であつただろう。私が湘子先生に初めて会つた夜、出雲の築地松の景観の素晴らしさも述べられていた。

出雲へも来よと手紙や松の内 552 『春祭』

一夜寝て寝たらぬ秋の築地松 555 『春祭』

出雲まで行かざる神もありつべし 558 『一個』

1981年(556作) 第五句集『春祭』 鑑賞・轍郁摩